



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2020年3月18日 Newsletter 第67号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部



「あなたもできる国際交流」

国際教育部部長 大和田 美子(英語科)

今年も心に残る国際交流が本校でいろいろ行われました。みなさんはどんな交流が思い出に残りましたか？ブラジル、フィリピン、中国、ポーランド、台湾、インドネシアの方と学年やあるいは学校全体の行事を通して交流する機会がありましたね。その他、講演会でエチオピアやキリバスのお話も聞けました。みなさんはどの国に興味を持ちましたか。その中でほっと心が温まった交流として生徒どうしの手紙のやり取りをあげたいと思います。

6月に台湾台南家斎高校から70名の生徒さん達が来校した時、12月にポーランドの生徒さん達が来校した時にお手紙による交流が行われました。生徒の中には「自分だけお返事がない人がいたらかわいそう」といって、一人で5～6通も手紙を受け取って、返事を書いてくれる人もいて、その優しさにとっても心がなごみました。

今の時代はメールで簡単にやり取りができるので、便箋や封筒を用意してペンで時間をかけて書くのは面倒だなと感じる人もいるかもしれません。でも手紙をもらうとその人の温かさや思いが近くに感じられてとてもいいものですので皆さんにお勧めします。私たちの学校とポーランドとの交流もたくさんの励ましのお手紙からはじまりましたね。お手紙は今でも人と人をつなぐ素敵なツールだと思います。学校でもお手紙ボックスを用意して、海外の方と交流がもてる機会をもっと増やしていこうと思います。これまでチャンスがなかった人もぜひ参加してみてください。

私が初めて海外の方と交流したのも手紙からでした。中学校にペンパルクラブというのがあって、どうやらメンバー登録をしたのだと思います。忘れかけていたある日ジャマイカの女の子から手紙が届いたのです。インターネットなどない時代ですから、ジャマイカがどんな国か想像もつかず、とてもわくわくしました。初めての英文の手紙は流れるように美しい筆記体で書かれていました。今でもそれを大切にしていますが、ジャマイカは私にとって世界への興味の扉を開く国になりました。またイギリスのスコットランドにも30年近くクリスマスカードをやりとりしている大切な友達があります。毎年12月にロイヤルメールと印字されたスタンプが押されたカードが届くと嬉しくなります。スコットランドの人は自分たちの文化を大切にしている、カードには英語のMerry Christmasだけでなくスコットランド語でHogmanayと書かれます。「よい年末を」という意味で、そこでは年末に盛大にお祝いする習慣があり、みんなでAuld Lang Syne(オールドラングザイン)が歌われます。この歌は日本に伝わり「蛍の光」として卒業式に歌われていて、不思議な日本との繋がりに驚かされます。手紙を通して異なる文化を知るのはとても楽しいです。ですから私も送る時に富士山とか舞子さんとか日本的なカードをあれこれ探しまわったりします。相手の事を考えながら手紙を書くにはちょっと時間がかかりますが、とても大切な時間だと思うのでこれからも続けていきたいです。そのためにもインターネットの普及で将来、郵便ポストがないということがおこらないよう祈りたいと思います。

